

# 平成25年度 事業報告

障害児入所施設あさひが丘学園  
障害者支援施設あさひが丘  
地域生活支援センターあさひが丘  
ガーデンキッズセルク・マルヤ

## 1. 平成25年度の重点目標に対する事業報告

平成25年4月より障害者総合支援法が施行されたが、障害程度区分の見直しやグループホームとケアホームの一元化など主な制度改正の論点は平成26年度以降に先送りされた。平成26年度以降の制度改正の検討状況を見極めながら、昨年度は下記の事項を重点目標に掲げ事業を推進した。

### 【障害児入所施設あさひが丘学園・障害者支援施設あさひが丘】

#### (1) 利用者の個別ニーズを的確に把握し、そのニーズに応じたサービスの提供が行えるような専門的支援技術の向上を図る。

職員の個別支援計画作成能力を高めるために、4月の園内研修で「個別支援計画について」をおこなうとともに、5月から7月までの間に、個別支援計画作成のための個別研修を全ての直接処遇職員に実施した。また、10月～2月に月1回、個別支援計画事例検討会議を実施した。事例検討会議には、延べ149人（1回平均29人）の職員が出席し、自己研さんに努めた。

#### (2) 入所施設利用者の生活の質を向上させる取り組みを推進する。今年度は、特に余暇の充実を図ることを重点目標とする。

今年度は、生活支援の「余暇」の充実を重点目標に取り組んだ。毎月担当者を決め、職員の個性に合わせた余暇企画（紙芝居・ペーパークラフト・ビーズ制作・サッカーなど）、外部ボランティアとの余暇（YPO 夕涼みコンサート、高木バンドコンサート、バレンタインチョコ作り）を実施し、利用者自治会でも利用者との意見交換や企画の反省を行い余暇の充実に努めた。また、休日余暇の過ごし方なども見直しドライブの機会を増やす、近隣への散歩、カラオケなど余暇の充実に取り組んだ。特に、児童部では、少人数での外出（動物園、水族館など）、成人部では、メニュー表からお弁当を選ぶ、個別外出（イオン、ドルフィンポートなど）の機会を増やすなどの取り組みで利用者からも笑顔が見られている。

#### (3) 利用者一人一人に応じた日中活動（生活介護）の充実を図る。

生産活動系グループにおいては、委託作業（目杭・運搬作業）や花苗栽培等の作業に取り組み、常時利用者1人当たり平均38,098円（年額）の工賃を支給することができた。創作活動系グループにおいても、今年度初めてバザー販売の利益にて常時利用者1人当たり2,500円（1回）の工賃を支給することができた。

今年度は、年間を通して交流活動を実施し所属科以外での活動体験や園外活動（買物外出、ランチ外出等）の機会を多く設けた。リハビリテーションについては、やまびこ医療福祉センターの理学療法士指導のもと利用者個々のリハビリマニュアルを作成しそれをもとに実践している。

(4) 職員研修を充実させるとともに、職員の人材育成を推進するために教育・研修要綱を作成する。

統括主任及びチーフが参加する人事考課検証会議を年2回実施し、人事考課の制度を高めるとともに、新任職員に対しては育成面接を年2～4回（1年目職員は年4回、2年目職員は年2回）実施し、新任職員の育成を推進した。

今年度は運営委員会のメンバーを中心に、ヒューマンパワーの森山氏による「管理職養成研修」を7月より毎月8回にわたり開催した。旭センターの幹部職員も加わり「管理職の役割とリーダーシップ」「部下育成とOJT」「組織の運営管理」等について学んだ。

前年度からの懸案事項であった幹部職員及びその他の職能要件書の見直しを行ったが、全職員への配布にまでは至らなかったため、今年度の早い段階で全職員へ配布し周知徹底を図る。

目標に掲げていた幹部職員に対する目標管理シートの作成と活用や教育研修要綱の作成は未達成であったが、今年度から「体験実習・研修・見学希望調書」を全職員に配布し、より職員の自主性を育てる目的で、積極的に法人内での別事業所への実習、外部事業所への見学・研修の希望を調整する仕組みづくりを行い希望を調整しながら実行していく。

(5) 障害児入所施設の小規模グループケアの新築工事、乗馬療法の土地造成工事、ケアホームの改築工事等の施設整備を行う。

- ①障害児入所施設の小規模グループケアの新築工事は県に施設整備の補助金申請を提出したが、残念ながら採択されなかったため、来年度も引き続き申請を行う予定である。
- ②乗馬療法の土地造成工事は、平成25年9月20日着工、平成26年1月31日竣工、3月6日鹿児島市から宅地造成に関する工事の検査済証が交付された。  
(事業費7,875,000円(税込))
- ③ケアホームの改築工事については、当初中古物件を改築する計画であったが、改築費用の見積額が新築した場合とあまり変わらなかったことから、新築工事を行うこととした。平成25年12月3日着工、平成26年4月30日竣工し引き渡しを受けた。  
(事業費41,040,000円(税込))
- ④児童発達支援事業ガーデンキッズセルクの定員を大幅に上回る利用希望者に対応するため、あらたな児童発達支援事業所ガーデンキッズトリアを開設することとし、(株)丸屋本社の所有する鹿児島市呉服町の南星ビル2階フロア(87.09㎡)の賃貸契約と改装工事を行った。工事は平成25年12月2日着工し、平成26年3月10日竣工、引き渡しを受けた。(事業費11,550,000円(税込))
- ⑤当初の事業計画にはなかったが、グループホームのスプリンクラー設置について鹿児島市から補助金交付の通知があり、既存の5ホームについて申請し、平成26年2月28日に補助金交付が決定した。工事は平成26年3月25日着工し、5月中旬に竣工、引き渡し予定である。(事業費13,500,000円(税込)、補助金7,757,000円)

## 【地域生活支援センターあさひが丘】

- (1) 地域生活支援センターについての広報活動を積極的に行い、利用者の拡大を図るとともに、職員が自主研修に意欲的に取り組めるように努める。

広報活動において、ホームページの活用については各事業所の様子をアップしていたが定期的な更新ができなかった。地域生活支援センターの広報誌である「地域生活センターあさひが丘だより」を年3回発行し、関係機関や春山地区各班の回覧板で地域住民へ各事業所の活動の様子を伝えた。また5月に皆与志地区民生員ボランティアの受け入れ、春山地区11班の常会の会場貸出しを2回行うが、具体的な計画を立てて実施することはできなかった。職員研修においては、職員研修会等への参加を通してサービスの質の向上に努めた。利用者についても各部署、前年度に比べ契約者数の増加があったが、就労継続支援B型については、20名定員を満たすことができなかった。

- (2) 就労Bにおいては、利用者を受け入れると体制を整え、働く喜びや自分の役割意識を持てるような取り組みを行う。

就労Bについては作業種の拡大を図って支援を行い、室内作業（各種箱折り、ダイレクトメール封入等）の作業種が増加したことで、平均工賃8,063円を支払うことができた。また施設外作業（ペプシコーラ委託作業、公園清掃委託作業、はっぴいエコプラザ：資源ごみ回収作業）や毎月1回実施してきた空き缶広いでは、地域の方々とあいさつを交わし、はっぴいエコプラザでは声をかけられることも増えている。

地域の方々との交流の機会をもち、地域に貢献できる取り組みを具体的に実現していく。

5月に皆与志地区民生員ボランティアの受け入れ、春山地区11班の常会の会場貸出しを2回行うが、具体的な計画を立てて実施することはできなかった。

- (3) 児童発達支援センターにおいては、利用者の支援を充実させるために関係機関との連携を図るよう努めるとともに、活動内容を工夫し、療育の充実を図る。

児童発達支援事業では、保健センターでの「わくわく親子教室」への職員の参加や、総合発達相談会の参加を通して、関係機関との連携に努めた。活動内容の工夫については、臨床発達心理士の指導を受けながら運動遊び、音楽遊び、課題遊びの中に絵カードなどを使用した視覚支援を行い、療育内容等の質の向上に努めてきた。また利用者が並行して通う保育園・幼稚園を訪問し、子どもの様子など情報交換を行い、療育場面に活かすことができた。放課後等デイサービスでは、遊び以外で掃除（掃き掃除、モップかけ）や衣類整理など、生活習慣に関するプログラムを準備し実施した。

- (4) グループホームにおいては、地域との交流を促進し、地域住民にグループホーム利用者について理解してもらえるように努める。

春山地区運動会や草刈り作業、地域の総会などに参加したが、地域住民との交流は十分といえない。今後も地域行事等に積極的に参加し地域住民との交流を図る必要がある。

- (5) ホームヘルプサービスにおいては、利用者の希望になるべく応じられるよう業務を工夫する。また、個別のニーズに応じたサービス提供ができるよう職員が自己研鑽に努める。

利用者の希望に沿うように兼務ヘルパーの職員配置などを工夫し、対応してきた。

これまで利用のなかった居宅介護のサービス提供を行うことができた。職員の自己研鑽については、個人で差がある状況であった。

- (6) 相談支援においては、計画相談を滞りなく受け入れることができるよう相談支援専門員の活動体制を整え、計画相談に関する質を高めていく。

今年度実績として、特定相談支援270件、障害児相談支援177件であった。計画相談件数の増加に伴い、相談支援専門員従事者研修を新たに2名の職員が受講している。

## 2. その他の事業報告

### (1) 職員研修・資格取得等

#### ①園内研修

月	テーマ	担当
4月	個別支援計画の作成について	八反田（支援課長）
5月	交通安全について	八反田（支援課長）
6月	障害者支援の実際①	宇都（成人統括）
7月	障害者支援の実際②	羽月（日中統括）
8月	障害者支援の実際③	濱田（児童統括）
9月	地域生活支援センターの事業内容について	水流恭（地域センター長）
10月	障害支援区分について	園長
11月	健康管理について	佐野・三浦（看護師）
12月	防災について	宇都（防火管理責任者）
1月	健康管理について	満元（管理栄養士）
2月	人権擁護について	羽月（日中統括）
3月	障害者制度改革について	園長

#### ②テーマ別研修

月	テーマ	講師
6月	日中活動の取り組みについて	羽月 浩二 氏（日中統括主任）他4チーフ
1月	障害者の権利擁護について	上山幸正 氏（上山法律事務所 所長）

### ③外部研修

全国知的障害施設職員研修会をはじめとする計51回の外部研修会に延べ113人の職員を派遣した。月例職員会議において参加職員の研修報告を行い、また、研修報告書を各部署に配布し研修内容の共有化に努めた。

### ④通信教育・資格取得

平成25年度は知的障害援助専門員通信教育を3名の職員が受講し、知的障害援助専門員資格を取得した。全職員の資格取得状況は以下のとおりである。

【有資格者数】(平成26年4月1日現在)

資格名	人数	資格名	人数	資格名	人数
社会福祉士	8	ホームヘルパー	17	知的障害援助専門員	13
介護福祉士	17	介護支援専門員	1	知的障害者福祉士	1
保育士	59	看護師	2	養護学校教諭	1
社会福祉主事	25	管理栄養士	1	介護職員基礎研修	1
臨床発達心理士	1	理学療法士	1	言語聴覚士	1
相談支援専門員	6	サービス管理責任者	11		

### (2) 実習・研修の受け入れ

下記の実習生・研修生等を受け入れ、福祉教育の充実に寄与した。

- ① 保育士実習 18名 (大学2校・短大3校・専門学校2校)
- ② 社会福祉士実習 5名 (大学1校・専門学校2校)
- ③ 介護福祉士実習 13名 (専門学校1校 一日のみ)
- ④ 福祉体験実習 31名 (高校1校・中学校1校)
- ⑤ 臨床実習 45名 (専門学校1校)
- ⑥ 介護等体験実習 2名 (2機関)
- ⑦ 特別支援学校現場実習18名 (3校)
- ⑧ 外部職員研修 104名 (6施設・2機関)

### (3) 各月初日の入所・通所利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
児童部 (契約)	18	18	19	18	18	18	18	18	19	21	20	20	225
児童部 (措置)	21	21	21	21	21	20	20	20	20	18	18	18	239
成人部 (入所)	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	480
成人部 (通所)	43	42	42	43	39	40	40	40	40	39	41	41	490
合計	122	121	122	122	118	118	118	118	119	118	119	119	1,434

\*児童部（契約入所）利用率 88.2% 新規入所 4名 退所 5名  
 \*成人部（入所）利用率 97.5% 新規入所 0名 退所 0名  
 \*生活介護（入・通所）利用率95.8% 新規入所 6名 退所 6名

（４）在宅サービスの利用実績

\*各サービス実績の単位

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
短期入所 (児童)	42	50	43	58	92	47	46	45	51	41	53	65	633
短期入所 (成人)	190	193	197	206	184	196	179	195	172	188	172	190	2,262
放課後等 デイ	398	381	322	422	500	306	309	334	330	330	310	386	4,328
児童発達支 援(歩路)	290	353	404	473	430	404	485	426	406	391	415	433	4,910
児童発達支 援(セルク)	238	254	272	276	253	267	284	266	254	252	240	281	3,137
居宅介護	24.0	23.0	14.3	23.5	17.5	16.0	14.5	25.0	26.0	30.5	27.0	26.5	267.8
行動援護	109.5	125.0	86.5	119.5	131.5	109.5	78.5	81.5	80.0	71.0	69.5	139.0	1201.0
移動支援	80.0	89.5	83.0	87.0	75.5	98.0	72.0	65.0	70.0	68.0	82.5	81.5	952.0
日中一時 支援	860	795	1035	887	957	1024	1062	1012	1053	860	895	1114	11,554
就労B	229	274	262	292	279	322	334	296	293	313	306	332	3,532
グループ ホーム	750	767	749	773	757	780	787	748	755	745	700	744	9,085
相談支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計画相談 (児童)	21	33	34	34	24	25	18	17	22	20	16	23	287
計画相談 (成人)	46	20	20	11	22	22	25	29	28	28	29	44	324

\*各サービス実績の単位

- 短期入所・グループホーム(日数)
- 放課後デイ・児童発達支援・就労B・相談支援(件数)
- 居宅介護・行動援護・移動支援・日中一時支援(時間数)

\*各サービスの利用率・対前年比

- 短期入所 利用率99.1% 対前年比122%
- 放課後等デイサービス 利用率88% 対前年比113%
- 児童発達支援(歩路) 利用率101% 対前年比367%(前年10月事業開始)

- 児童発達支援（セルク）利用率 108% 対前年比 219%（前年 7 月事業開始）
- 居宅介護 対前年比 163%
- 行動援護 対前年比 125%
- 移動支援 対前年比 154%
- 日中一時支援 対前年比 124%
- 就労継続 B 利用率 71%
- グループホーム 利用率 96%

(5) 各サービスの利用契約者数(平成 26 年 4 月 1 日現在)

サービス名	児童	成人	合計
入所（契約）	20	40	60
入所（措置）	18	0	18
入所小計	38	40	78
生活介護（通所）	-	43	43
短期入所	111	89	200
居宅介護	23	29	52
行動援護	12	8	20
日中一時支援	96	67	163
移動支援	32	52	84
就労継続支援 B 型	-	17	17
児童発達支援（歩路）	65	-	65
児童発達支援（セルク）	61	-	61
児童発達支援（トリア）	22	-	22
放課後等デイサービス（我路）	70	-	70
放課後等デイサービス（トリア）	4	-	4
グループホーム	-	25	25
相談支援	177	270	447
在宅小計	673	600	1273
合計	711	640	1351